

題字の写真は、粕谷会長が気に入っているカワセミの写真です。美しい羽根を持ったカワセミですが、こんな一面もあります。捕った魚が大きくて一生懸命地面にたたきつけて食べようと悪戦苦闘しています。とてもユーモラスで、したたかで、逞しく食欲旺盛です。生きるためには餌をとることがいかに大変なのかと思います。（関谷）

紅葉台



新聞

第169号
2025年
2月15日
発行人：関谷 孝

粕谷和夫（八王子・日野カワセミ会会長）の 野鳥愛はみんなと一緒に楽しく！



この新聞の「自然観察日記」でお馴染みの粕谷会長について皆さんから毎回素晴らしいと感想をいただいています。そこで、どのような活動をされている方なのかご紹介します。

1939年生まれ（今年86歳）。実家が立川市（旧砂川村）。子ども9人（兄弟3人・姉妹6人）の6番目。実家は農家で主に畑の仕事手伝いをしながら昆

虫少年として育ちました。実家では、蚕・牛・ニワトリ・ガチョウ（番犬として）を飼っていました。

子どもの頃は虫好き少年でした。毎日、近くの木にカブトムシなどの仲間の虫を見に行くのが楽しみでした。じっくり観察することは子どもの頃から始まっていたのです。ホオジロを捕まえて飼ったりもしました。捕まえるための仕掛けをつくるのですが、放っておくとモズに食べられてしまうこともあったそうです。自分はガキ大将タイプではなく、なんでも工夫をして仲間と遊ぶのが好きでした。野球も自家製のボールを作って遊びました。

父親は、理不尽なことが許せない一本気の人。政治に関心があり自分の考えをしっかりとというのが今の自分にもある。また、母親は植物が好きで花を育てたり名前を教えてくださいました。今になって両親の良いところを引き継いでいるのではと思うそうです。

大学時代に60年安保があり政治の話が活発でした。デモに参加するかどうか、クラス討論では自分は意見をしっかりとという方でした。その後、農林水産省で働きます。海外技術協力（JICA）に携わり、タイ国の養蚕の指導の支援もしました。日本では転勤族であちこちに行きました。そのような仕事を通して「**田んぼがあらゆる生き物の命を育む大切な役割を果たしている**」と気付かされたそうです。今も各地の田んぼを回って野鳥の観察しているのはそのことが影響しています。（写真 イソヒヨドリの子鳥）



40歳の時に日本野鳥の会入会。仙台の広瀬川で見たカワセミに感動しました。光を受け瑠璃色に輝くその美しい姿は見る人を引き付ける魅力があります。

45歳で八王子に戻った時、浅川は水が汚れていましたがカワセミがいました。そこで、「**市民探鳥会（八王子カワセミ会）**」を立ち上げました。そのころの日本野鳥の会はガン・カモ類等全国一斉調査をやっており、このことが野鳥の会の活動として大事だと思ったからです。

浅川に生息するカワセミは「**八王子の宝**」といます。野鳥観察は趣味だけにとどまらず「**自然保護の原点として鳥の数をカウントして記録・公表すること**」を始めました。カワセミ会で年2回発行している会報誌は内容も充実しています。会員の皆さんの調査報告が専門誌以上で驚くほどです。是非手に取ってみたいと思います。そのような活動は一人ではできません。会長さんにはたくさんの方が集まって来て支えています。とくに元同僚で八王子に住み正義感の強い門口一雄さんは本当に気の合う仲間感謝していると話していました。今でもカワセミ会には得意なことを生かした仲間がたくさんいます。感心するのは会長さんの周りにはいつも力のある素晴らしい人たちが集まってくることです。



（写真 ジョウビタキの雌）

今願っていることは、「カワセミ会は40年の蓄積があり基盤が出来たのでこれからも100年、200年にわたって続けていってほしい」ということです。続けるには楽しくなければできないと話していたのが心に残りました。会長さんはいつでも明るく楽しく人に親切で優しいのはその思いがあつてのことと思いました。

合唱活動は28歳から続けています。昨年の年末に第九の演奏会に出演しました。きっかけは芥川也寸志（やすし・作曲家・指揮者）さんとの出会い。「**100人以上の合唱団はアマチュアこそがよい音楽を奏でることが出来る**」との信念があります。当時、市民合唱団として「**合唱団鯨**」を結成し創立メンバーとして50年以上活躍し、今はOBとして「**鯨**」を見守っています。

オカリナの練習を80才の時に始めて今年から八王子市の市民講座の講師として活動をしています。オカリナの先生がギターを勧めてくれ、その縁でギターの練習も2年前から始めました。これは脳が衰えないためには同時にいろんなことをするといからだそうです。

最近は老人会の園芸部長になって、自宅近くの天神公園を地域の方たちとみんなで花壇の管理をしています。何でもみんなでやるのが大事。今年は菜の花とチューリップを450球植えました。老人会の仲間が市と交渉して球根代を捻出して自分たちで公園を花で飾ることを始めました。そんな会長さんにはたくさんの方が集まってくるのも頷けます。



「人を動かすにはまず自分がやる。みんなと一緒に楽しくやる」（写真 サカハチチョウが頬に止まっています。蝶にも好かれています）

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

題字の写真は、粕谷会長が気に入っているカワセミの写真です。美しい羽根を持ったカワセミですが、こんな一面もあります。捕った魚が大きくて一生懸命地面にたたきつけて食べようと悪戦苦闘しています。とてもユーモラスで、したたかで、逞しく食欲旺盛です。生きるためには餌をとることがいかに大変なのかと思います。（関谷）



こんな風に社会貢献することで人が喜ぶし、人の役にも立つ。その循環が活動のエネルギーになっていると言います。元気で前向きに生きる。まだまだやりたいことはいっぱいあります。日本全

国にたくさん旅に行きたいし、現地の人と話をし酒でも飲みかかわりたい。それが幸せです。それにいくつになってもマドンナがいるのはいいものだそうです。姉妹がいたので女性から学ぶことがたくさんあったようです。女性の気持ちも良く分かるのですね。ますます粕谷会長の考えを聞いて素晴らしいなと感じました！

（写真 エナガ混群の中の幼鳥）

追記：読売カルチャーの野鳥観察元講師。日本自然保護協会自然観察指導員。日本チョウ類保全協会会員。八王子カワセミ会の創立者、現会長。TV・雑誌等でも活躍。特に地元誌「はちとび」では毎月記事を投稿しています。ご要望があれば「小宮公園で野鳥観察」の体験をすることが出来ます。

希望する方は、「八王子バードウォッチング支援の会（kasuya.kazuo200@gmail.com）」へ問い合わせてください。

探鳥会に関心のある方は「八王子・日野カワセミ会」のHPを見てください。

*文中の写真は粕谷会長のお気に入りの野鳥です。

粕谷和夫の観察日記



今シーズンは、冬鳥のカシラダカやツグミの姿が少なく、昨年未からどうしたのかと心配していました。正月になりニューイヤーカウントとして多摩川右岸昭和水堰上流川原に行きました。ベニマシコの真っ赤なオス1羽とメス2羽に会い、正月から縁起がいいなと思いました。**カシラダカ**（写真上）と**ツグミ**（同下）にも出

会いました。カシラダカの白い腹と頭の冠羽がはっきり確認できました。



セリ、ナズナ、オギョウ（ゴギョウ）、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロの春の七草が1月1日に歩いて立ち寄った向島百花園に飾られていました。

1月7日の「七草粥」として食べられ、健康や無病息災を願う新年の伝統行事、伝統料理として親しまれています。

セリ、ナズナ、オギョウ（ハハコグサ）、ハコベ、ホトケノザ（コオニタビラコ）の5種は野草で、今年も1月2日に野鳥の定期カウントに行った八王子・高月水田で見られました。

*皆さんも七草粥を食べましたでしょうか。スーパーでは、

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

ミツバ、高菜、春菊、ホウレンソウ、葉ごぼう、かぶ、大根の野菜の新芽を七草として売っていました。（関谷）



奥高尾の小仏城山の山頂を目指し

て日影林道を登って行きました。頂上まで半分登ったところで林道の幅全面が凍結しているところがありました。他の登山者は道の端を歩いて登って行きましたが、私は滑って転んで怪我をしないようにここで山頂を目指すことを諦めて引き返しました。引き返し地点で道端を覗いてみると**氷の花**が咲いていました。1月11日の厳冬の一場面です。別世界で



した。



湯殿川に**ヒクイナ**がいることは昨年分かられていて、毎月の定期カウント時に注視していましたが、昨年はお出会うことがありませんでした。今年1月の定期カウントでついにこの鳥に出会いました。（写真上）

ヒクイナは「緋のように赤いくひな」というところからヒクイナと呼ばれるようになったといわれていて、クイナより一回り小さいです。腹から顔にかけて赤褐色である。背面は褐色で脚は肉色、虹彩は赤い。嘴はクイナに比べると短いです。環境省レッドリストでは準絶滅危惧（NT）に指定されています。写真下はクイナで、この日は2か所で**クイナ**にも出会いました。湯殿川は素晴らしい川です。

今シーズンは冬鳥の**ツグミ**の姿をあまり見かけないので心配していますが、1月18日、八王子・宇津木台緑地の雑木林の中で地面に降りて餌をとっているツグミに出会いました。近くにはシロハラ、ジョウビタキのオス・メスもいて、野鳥に囲まれた一時でした。



「大寒」の日、日中の気温は3月並みになりました。この写真の場所は八王子・宇津貫緑地です。紅梅の蕾が少し膨らみかかった梅の枝の間で水浴後の**ジョウビタキのメス**が寛いでいました。隣にはスズメも2羽



いました。久しぶりに新宿御苑に行き**オシドリ（鴛鴦）**と再会しました。いつものように日本庭園の上の池の一番西側にいて、木の陰にずっといて明るいところには出てきてくれません。10羽くらいはいました。オスはイチヨウバネ（銀杏羽）を目立つように上に立てて、メスへアピールしていました。

久しぶりに新宿御苑に行き**オシドリ（鴛鴦）**と再会しました。いつものように日本庭園の上の池の一番西側にいて、木の陰にずっといて明るいところには出てきてくれません。10羽くらいはいました。オスはイチヨウバネ（銀杏羽）を目立つように上に立てて、メスへアピールしていました。

